

平成 29 年度 津田海岸におけるハマグリ稚貝穿孔率結果

1. 目的

津田海岸において、打ち上げられたチョウセンハマグリ稚貝の合弁死殻を採取し、死因の特定のためにツメタガイの食害跡の有無を調査した。

2. 調査概要

・ 第一回調査

調査日時：2017 年 9 月 13 日

実施者：齋藤遼 佐伯俊枝 採取個体数 323 個体

・ 第二回調査

調査日時：2017 年 10 月 26 日

実施者：齋藤遼 佐々木隆志 採取個体数 52 個体

・ 第三回調査

調査日時：2018 年 1 月 4 日

実施者：齋藤遼 佐々木隆志、岩崎弘士 採取個体数 53 個体

3. 調査方法

稚貝生息状況調査を行った津田海岸において、胴長靴を着用し波打ち際や砂浜に打ちあげられた合弁死殻をランダムに拾い集めた。その後、ツメタガイの食害跡の有無を確認し、穿孔率を算出した。また、採取した死殻の殻長を計測し、殻長分布表を作成した。

4. 調査結果

4.1. 穿孔率の推移

調査ごとの穿孔率の推移を図.1 に示す。

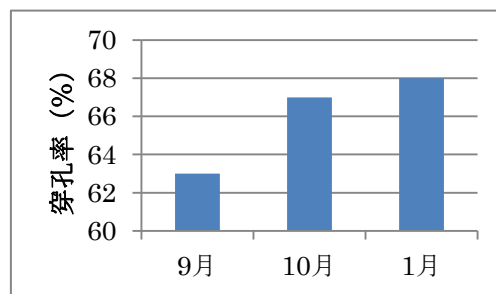


図.1 穿孔率の推移

9 月調査時の穿孔率は 63%、10 月は 67%、1 月は 68%であった。

4.2. 死殻の殻長分布

調査ごとの死殻の殻長分布を図2～図7に示す。

いずれの調査時も、ツメタガイの食害跡がある死殻とない死殻では、殻長分布の傾向が異なった。

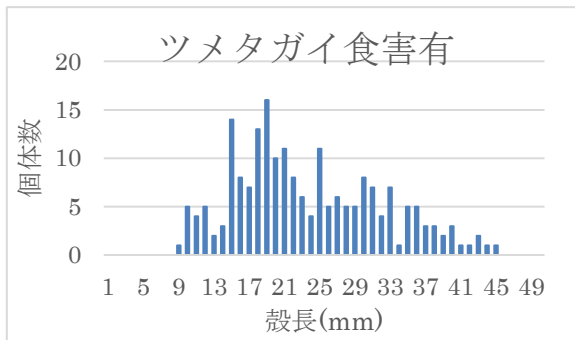


図.2 殻長分布 (9月調査時 食害あり)



図.3 殻長分布 (9月調査時 食害なし)

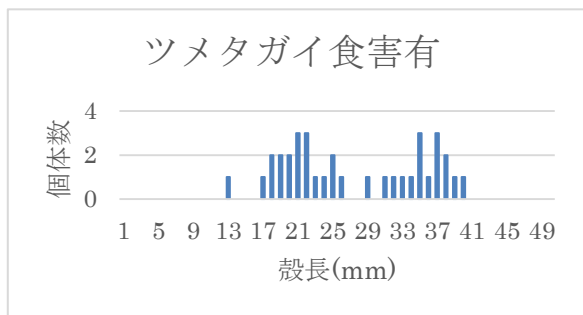


図.4 殻長分布 (10月調査時 食害あり)

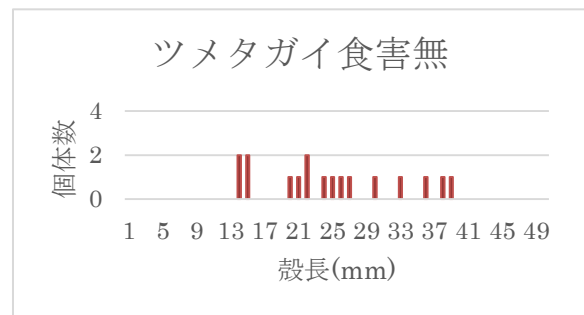


図.5 殻長分布 (10月調査時 食害なし)

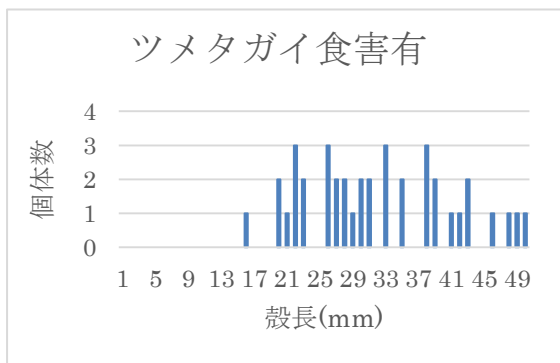


図.6 殻長分布 (1月調査時 食害あり)

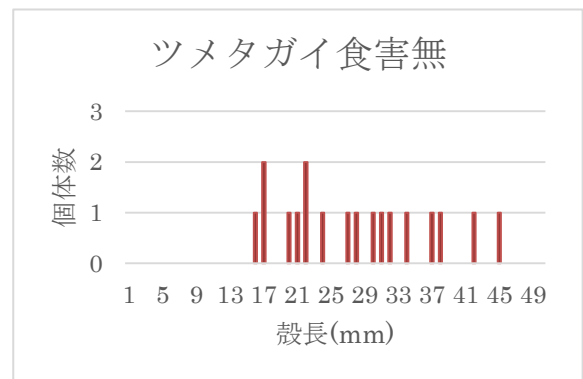


図.7 殻長分布 (1月調査時 食害なし)

5. 考察

一昨年以前の調査では、穿孔率が80%前後であることを考慮すると、昨年に引き続き穿孔率が小さい傾向があった。特に9月調査時は食害跡の無い死殻の割合が高かった。8月に行った生体の密度分布調査時には2～3歳貝の割合が極めて小さかったが、死殻は多くあったことから、夏季にツメタガイの食害や高水温によって2～3歳貝の多くがダメージを受けたことが示唆される。